

「えんがわ」のつぎやき 「いい年だった」の声聞きたい

「おーい、おーい」。静寂に包まれたお寺の境内に、男性のさげびが響き渡る。男性は年が明けるまで、市内が見渡せる高台の鐘つき場で、何度も何度も、海に向かつて今も行方が分からない仲間を呼び続けた。

「えんがわ」で開いたイベント「にこまるクッキー&フイギョ製作体験」で知り合った女性の誘いで昨年未、岩手県陸前高田市のお寺に鐘突きに出かけた。

女性の夫は同市内で代々続くお寺の住職。津波で自宅を失い、お堂の一部が流されたことから、一時は除夜の鐘の中止も検討したというが、「今年もせひ」という地元住民の声が後押しし、開催にこぎつけたという。男性は、鐘突きが行われると知り、この日、お寺を訪れた地元消防団の団員だった。

家族や仲間を亡くした人、家を失った人……。昨年は、津波や地震で、どれだけ多くの人の心と体が傷ついたことか。被災地で昨年、仕事をしていた身として、男性の姿に胸が痛んだ。

「おめでどう」の言葉を今年の正月は聞くことがなかった。自分も結局、その言葉を発することはなかった。昨年、年をすることを考えれば、年が明けたとはいえず、めでたい気持ちになれないのは、当然かもしれない。

「復興頑念」。宮城県の村井嘉浩知事は、今年の抱負をこう記した。東日本大震災からの復興に頑張り、そして復興を願う気持ちをおの4文字に込めたのだという。

多くの被災者が仕事を失い、雇用保険の失業給付を受けていた人の中には間もなく「満期」を迎える人がいる。生活を再建するために、自分に合った「就職」を見つけたければと思っている人もきっと少なくないだろう。

「えんがわ」では、そんな方々に足を運んでもらい、一人でも多くの方が生活の糧(かて)を得て、明日への希望を取り戻してもらえよう、今後さまざまな支援事業を展開していこうと考えている。

多くの人が今年の年の瀬に、「いい年だった」と思えるように願っているから。(M)

仙台市子育てふれあいプラザ 「のびすく仙台」イベント情報(2月)

子育てを応援する施設です！好きなときに好きなだけ遊んでいけるオーブンな空間です。入場料等はありませぬ。どんなところか、まずはお子さんと一緒に遊びにきてください。

- 利用出来る人 主に乳幼児とその家族
 - 住所 仙台市青葉区中央2丁目10番24号
(仙台市方角局シヨールム3階)
TEL.022-726-6181 / FAX.022-214-5071
 - 開催時間 9:30~17:00(託児室は16:30まで)
 - 休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始
- ※他のイベントに関しては、「のびすく仙台つうしん」またはHPをご覧ください。

ママともサロン0123(託児付) 2/1~申込要

震災後、さまざまな不安を抱えて福島県から仙台に避難してきたママたちのサロンです。こどものこと、これからのこと、仙台での生活のこと……。子どもと離れてゆっくりとした時間を過ごしましょう。

■日時: ①2月17日(金)10:30~12:30 ②2月28日(火)10:30~12:30 ■場所: ①エル・パーク仙台 和室 ②エル・パーク仙台 創作アトリエ *いずれも、仙台三遊定禅寺通り5F) ■対象: 福島県から避難してきた乳幼児をもつ母 ■定員: 10名 ■参加費: 無料

Piccolo Room (ピッコロルーム) 子ども一時預かり募集

専門の研修を受けたスタッフが最長で2時間から、お子さまをお預かりいたします。東日本大震災でひとり親となった方などは、状況に応じて託児料の50~100%の減免を受けることができます。

■利用時間: 午前8時半~午後6時半 (時間外は要相談) ■託児対象: 未就学児 (おおもね生後6か月~) ■託児料: 1時間700円 ■申し込み: 利用日の3日前までに kodomo_katei_sien@yahoo.co.jp または FAXで 022-279-2883 に「託児登録希望」と書いて申し込みください。

ぬいぐるみ ちゃんなで製作



ぬいぐるみ製作を通して、3月9日に東「えんがわ」と宮城野区扇町1丁目の仮設住宅集めて、収入につけてもらおうと、NPO法人「えんがわ」が主催で開かれた。

16日の体験イベントは、太白区あすと長町の仮設住宅の住民ら9人、26日の扇町1丁目の仮設住宅では18人が参加。NPO関係者の指導で参加者は、藍染の生地を切ったり、縫い込んだり、徳島県産の竹を混ぜた綿を詰め込み、だりする作業をした。

「えんがわ」・扇町1丁目体験イベント

り手になつてもう一つの目的。作ったぬいぐるみはNPO法人「えんがわ」が主催で開かれた。NPO法人「えんがわ」が主催で開かれた。NPO関係者の指導で参加者は、藍染の生地を切ったり、縫い込んだり、徳島県産の竹を混ぜた綿を詰め込み、だりする作業をした。

主催者は、体験イベント後、定期的に買い取りを実施している。

中にはイベント終了後、10日間で20個以上製作した人もおり、参加者の一人は「余暇を使って収入につなげることができてうれい」と話している。



仙台市内の仮設住宅「えんがわ」で開かれ、など暮らす被災した子育て世帯を支援しようとして「のびすく仙台」を楽しむ「えんがわ」が12月21日「クリスマスパーティー」を開催した。

クリスマスパーティー

はNPO法人「チャイルドライン」みやぎやPSなど主催。若林区のりトミック講師土山真理子さんの指導がなく、被災後に初めて人が集まるイベントに参加した。子どもが久々に、走り回ることができてよかったと話した。

イベントではりトミックや紙芝居のほか、幅広い人々に大はしゃぎ。参加した親子は、ゾウなどの動物になりきり、輪になって走り回るなどして、楽しんだ。



リズムに合わせて楽しむ親子

親子で音楽遊び チャイルドライン

手作りワークショップ参加者募集/えんがわさんかわでは福島県柳川市に伝わる吊るし飾り「さげ雛」(さげもん)の製作体験の参加者を募集している。2月15日と3月14日の計2回、「えんがわ」を会場にワークショップを開く。

製作体験は、ハートフルサポートセンターの主催。気仙沼市や取市で小物づくりを通じて被災者支援に取り組む土生信子(はぶともこ)さんを講師に招き、2月15日はさげ雛のうち、まりを製作。3月14日は全体を完成させる。

さげもんは、城の奥女中が着物の残り布で、子どものおもちゃや琴爪入れを作ったことが始まりとされる。子供の成長と長生きを願いまりを言め51個のさげものを飾るのが古くからの慣わしだ。

参加費は無料で、事前には、PSCコミュニケーション、フック創出事業部、岡本18まで連絡が必要。